

受章祝賀会



前会頭江口信義氏の旭日双光章受章を祝う祝賀会が、八月二十日、柳川の御花に、国会議員、県議会議員、商工業関係者ら二四〇人を招き、盛大に開かれた。

江口信義氏（七十二）は、五月十二日、東京プリンスホテルで旭日双光章を受章された。その後皇居へ。天皇陛下からの祝いの御言葉を賜った。

大川商工会議所の経歴は、昭和五十四年に会議所議員、六十三年からは常議員。平成四年には副会頭に。そして平成十三年十一月から十七年十月まで四年間会頭を務められた。そして今回の受章はこの間の産業振興貢献が評価されたもの。

近藤会頭は発起人代表として受章の背景に注目しながら、「会頭在任中は、大川商工会議所の財政基盤強化、会員増強を図りながら、組織力を高められた。SAJIK Aブランド製品開発を始めとする地場産業（インテリア業界）振興への貢献は大きかった。JAP ANブランド事業は、九州で唯一大川商工会議所だけが採択を受け、現在も継続事業と

なっている。まもなくフランスメゾンへの展示出展も計画されている所です。大川を再生させる、産学官民によるリバイバルプランも、江口氏の尽力に依るところが大きい。労働災害減少をもたらした労働安全衛生に関する功績、低利の融資制度の浸透を図った、小規模企業の経営改善、まちづくり、などの功績も目立っている。今後、地域経済の発展のためますます貢献されることを期待したい。」と挨拶。

続いて、古賀一成衆議院議員は次のように祝辞を述べた。「江口氏は私の先輩に当たる方、二人とも地元大川小学校の出身です。それだけにとても嬉しく思います。高度経済成長を遂げてきた頃、江口先輩はリーダーの一人として、大川の家具産業を組織し、日本の各産地のベースを作ってこられたと思います。ただ、今は次の時代を切り開くため模索を続けている現状、だと思えます。健康に気をつけながら、さらなる発展のため尽力していただけるようお願いします。」
鳩山邦男衆議院議員は「江口さんは地元後援会の会長と

前会頭 江口信義氏の功績をたたえる

旭日双光章



挨拶をされる江口信義氏



近藤 敏郎会頭



鳩山 邦男衆議院議員



古賀 一成衆議院議員



吉村 剛太郎参議院議員



植木大川市長



肖像画除幕式



勲章と賞状

してお世話をしていただいています。江口さんには深い恩義を感じています。私が文部大臣だった頃、校長、教頭の中から、どういう基準で、叙勲、褒章該当者が選ばれるのか、担当に尋ねたことがあります。それによると、利己的に功績を挙げた人は該当しない。むしろ、人のため、他の人が喜ぶのを願って行動してきた人が選ばれるとのことでした。江口さんもまさに利他的な思いで貢献されてきたこと、そしてその人柄の故に、国家から祝福されているのだろうと思います。これからも後輩の指導に当たり、未永く幸せであることを願っています。」

吉村剛太郎参議院議員は「バブル崩壊後の十年間は、江口氏を始め、業界の方のご苦勞は大変なものだったろうと思われます。この苦勞の多い時代、行政としてサポートを強めていきたいと思っています。今後も地域のためご尽力を期待したいと思っています。」

そして、植木大川市長。「実は江口氏の長兄さんも、黄綬褒章、勲五等旭日章を受章されており、江口家から二人の方が受章されたことになり実に喜ばしいことです。大川市においても名誉なこと。市民を代表して敬意を表したいと思います。」と祝辞を述べた。

その後、肖像画除幕式、記念品贈呈、そしてほほえましい雰囲気を出した、幼い孫達による花束贈呈のセレモニーが続いた。

江口前会頭は、「この賞をいただけたことはまさに皆さんのおかげです。一人では決して受章することはなかったでしょう。日本が終戦を迎えたとき、私は小学校五年生でした。これからどういう風に生きようか、と考えたものです。そのとき印象に残っていたのは先輩達の誠実な心です。私も七十二歳になりましたが、生ある限り大川市のため誠実にがんばり続けたいと思います。」とお礼の言葉を述べた。

後半の祝宴では、和気藹々と多くの人たちは江口ご夫妻に近づき、ねぎらいとお祝いの言葉をかけていた。

江口氏のこれからのご健闘とご多幸を祈念申し上げます。